

株主メモ

事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会	毎年6月
基準日	毎年3月31日
中間配当を行う場合の基準日	毎年9月30日
株主名簿管理人	東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社
郵便物送付先 (お問い合わせ先)	〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部 TEL 0120-782-031 (フリーダイヤル) 取次事務は、三井住友信託銀行株式会社の本店及び 全国各支店で行っております。
住所変更等の お申出先について	株主様の口座のある証券会社にお申出ください。 なお、証券会社等に口座がないため特別口座を開設 されました株主様は、特別口座の口座管理機関である 三井住友信託銀行株式会社にお申出ください。
未払配当金の 支払について	株主名簿管理人である三井住友信託銀行株式会社 にお申出ください。
公告方法	電子公告により行います。ただし、電子公告によること ができない事故その他やむを得ない事由が生じたときは、 日本経済新聞に掲載する方法により行います。
公告掲載 サイトアドレス	https://www.garage.co.jp/ja/ir/public_notice/
上場取引所	東京証券取引所 市場第一部
銘柄コード	4819



株式会社デジタルガレージ

〒150-0022 東京都渋谷区恵比寿南三丁目5番7号

【お問い合わせ先】 ☎ 03-6367-1111

【当社Webサイト】 <https://www.garage.co.jp/ja/>

ホームページのご案内

当社ホームページではIR情報のほか、デジタルガレージグループに
関する情報をリアルタイムで紹介しております。ぜひご覧ください。



当社Webサイト <https://www.garage.co.jp/ja/>



当社Webサイト IRページ <https://www.garage.co.jp/ir/>

Webメディア「DG Lab Haus」

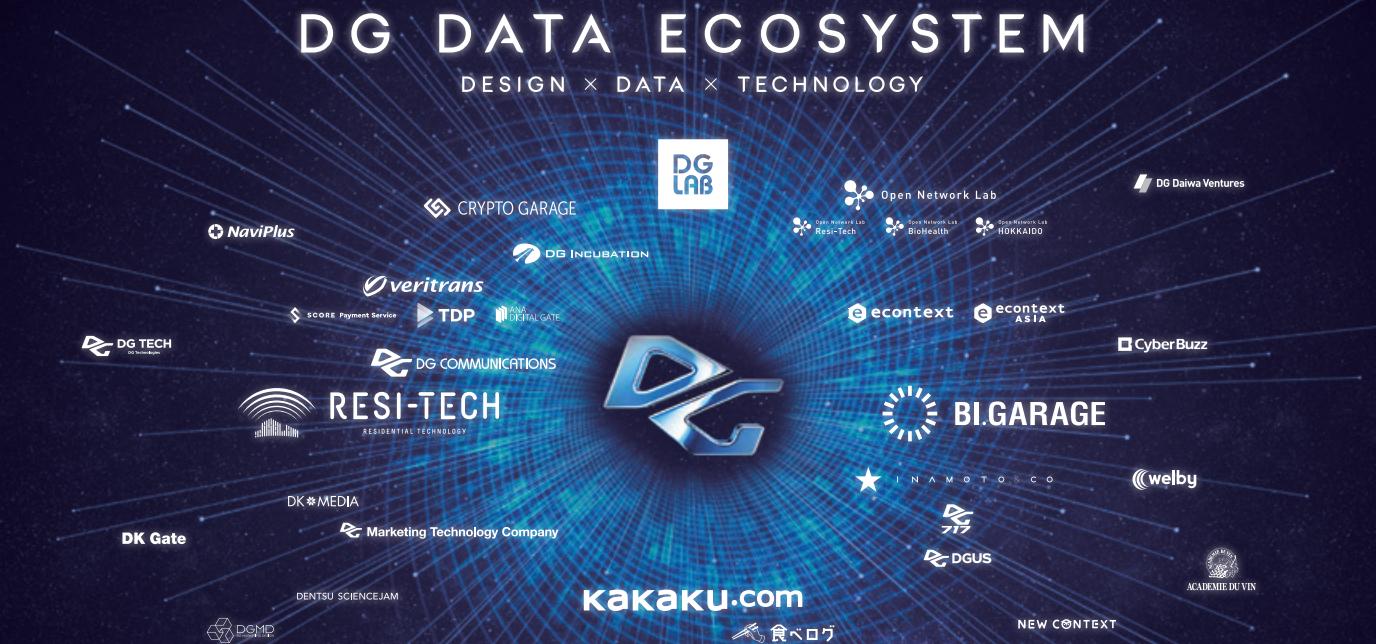
DG Labの注力分野において、世界中のオーブ
ンイノベーションの現場で生まれるニュースや
業界のリーダー達が語る未来を発信。



DG Lab Haus ホームページ <https://media.dglab.com/>

Business Report

第24期 2019年3月期



OPEN INCUBATION TOWARD 2020

第24期 2019年3月期





2019年3月期 決算サマリー

IFRS適用初年度の税引前利益は
前年同期比60%増の134億円と過去最高益を更新

Profit before tax for the first year of application of IFRS increased
60% YoY to 13.4 B JPY, a record high

「Open Incubation toward 2020」をスローガンに掲げた中期経営計画がスタートしてから、2年が経過しました。おかげさまで業績も好調に推移し、IFRS適用初年度の2019年3月期の税引前利益は前年同期比60%増の134億円と過去最高益を更新することができました。

フィナンシャルテクノロジー・セグメント (FT) では、決済取扱高が同34%増の2.1兆円超と好調がつづいており、過去最高益を更新しました。インキュベーションテクノロジー・セグメント (IT) では、投資先の公正価値評価額 (DG持分価値) が大幅に増加し、また投資回収も順調に進みました。

デジタルガレージは来年、設立25周年を迎えます。日本と海外、マーケティングとテクノロジー、現在と将来をどのようにつないでいくかという課題に取り組み、世の中の役に立つ「コンテキスト」を創っていく会社として、デジタルガレージを創業しました。以来、デジタルガレージは常にインターネットの波打ち際を走りながら、「日本初」のプロジェクトに取り組んできました。デジタルガレージの歴史は、日本のインターネットの歴史であると自負しています。今後も、DG Labを実証実験の場にしながら、最先端の技術動向を的確に把握し、次のステージに向けて邁進していく所存です。

Two years have passed since the launch of our Mid-term Plan, which is based on the slogan "Open Incubation toward 2020." Operating results were also favorable, and we achieved a record-high profit before tax of 13.4B JPY, up 60% YoY, in the fiscal year ending March 2019, the first year of adoption of the IFRS.

In the Financial Technology Segment (FT), transaction volume continued to be strong, rising 34% YoY to more than 2.1T JPY, marking a record high for profits. In the Incubation Technology Segment (IT), the fair value valuation (DG equity value) of investee companies increased significantly, and investment recovery also progressed steadily.

Next year, we will celebrate the 25th anniversary since the establishment of Digital Garage. Digital Garage was founded as a company that tackles issues such as: how to create the "context" of the internet; how to link marketing and technology, Japan and overseas, the present and future; and creating contexts that are useful to the world. Digital Garage has been working on a "first-ever project in Japan" while continually driving the edge of internet ecosystem. We are confident that the history of Digital Garage is the history of the internet in Japan. We will continue to make the DG Lab as a field for proof of concept projects, accurately grasping the latest technological trends, and striving for the next stage.



林 郁
Kaoru Hayashi

代表取締役 兼
社長執行役員グループCEO
Representative Director,
President Executive Officer
and Group CEO

【2019年3月期 決算ハイライト】 [FY19.3 Financial Highlights]

収益は前年同期比40%増の357億円、税引前利益は同60%増の134億円、
当期利益は同52%増の98億円

～リカーリング型事業の収益は同25%増、営業有価証券に関する収益は同6倍～

Revenue increased 40% YoY to 35.7B JPY, profit before tax increased
60% to 13.4 B JPY, and profit increased 52% to 9.8B JPY

Revenue in recurring business grew by 25% YoY, revenue in operational investment securities increased 6 times YoY

2019年3月期は、収益は35,687百万円(前年同期比40%増)、税引前利益は13,424百万円(同60%増)、親会社の所有者に帰属する当期利益は9,771百万円(同52%増)となりました。当期の収益は、すべての事業が二桁以上の増収を確保し、フィナンシャルテクノロジー・セグメント (FT) / マーケティングテクノロジー・セグメント (MT) を中心とするリカーリング型事業は同25%増収となりました。利益面ではインキュベーションテクノロジー・セグメント (IT) / ロングタームインキュベーション・セグメント (LTI) における保有有価証券の

公正価値が拡大し大幅な増益を達成することができました。

2019年3月期の連結財務諸表から、国際財務報告基準 (IFRS) を任意適用しました。前2018年3月期と2019年3月期の連結決算においてIFRSを適用し開示しています。IFRS適用の背景と目的は、主としてリカーリング事業であるMT、FTにおける収益実態を正確に反映させること、ITの投資先企業の持分価値を公正価値評価により適切に表示し、ひいては、DGの企業価値評価における重要な指針を表明することにあります。

連結損益計算書 (IFRS)	Consolidated statements of income	2018.3期	2019.3期	前年同期比 (%)
収益	Revenue	25,503	35,687	+39.9
リカーリング型事業から生じる収益*	Revenue in recurring business	18,141	22,713	+25.2
営業投資有価証券に関する収益	Revenue in operational investment securities	1,007	6,090	6.0 倍
その他の収益	Other income	2,111	1,933	-8.4
金融収益	Finance income	764	117	-84.7
持分法による投資利益	Share of profit of investments accounted for using equity method	3,481	4,835	+38.9
費用	Expenses	17,127	22,264	+30.0
売上原価	Cost of sales	7,187	10,401	+44.7
販売費及び一般管理費	Selling, general and administrative expenses	9,095	11,296	+24.2
その他の費用	Other expenses	542	332	-38.8
金融費用	Finance costs	303	235	-22.5
税引前利益	Profit before tax	8,376	13,424	+60.3
親会社の所有者に帰属する当期利益	Profit attributable to owners of parent	6,412	9,771	+52.4

※FTの決済事業やMTのインターネット広告事業等、継続的に収益獲得を図るビジネス。

(単位:百万円 / JPY in Millions)

収益は前年同期比13%増の67億円、税引前利益は同13%増の32億円

Revenue marked 6.7B JPY, +13% YoY, profit before tax marked 3.2B JPY, +13% YoY

収益は純額表示、税引前利益は過去最高益更新

Revenue is presented on a net basis, and profit before tax marked record-high

フィナンシャルテクノロジー・セグメントでは、Eコマース(EC)をはじめとするBtoCの商取引に必要な不可欠なクレジットカード決済やコンビニ決済等の電子決済ソリューションの提供を行っております。

2019年3月期においては、収益は前年同期比13%増の6,693百万円、税引前利益は同13%増の3,174百万円となりました。

決済事業を展開するペリトランス(株)及び(株)イーコンテクストにおいて、EC市場で高成長が続いていることに加え、国民年金保険料のカード決済及び国税のコンビニ決済の取扱開始や、訪日外国人による

インバウンド消費に対応した対面決済、飲食や不動産、葬儀等の市場に特化した非EC決済が増加した結果、決済取扱高は2.1兆円、決済取扱件数は3.9億件と、共に前年同期比30%超増加し、市場成長率を上回って伸長致しました。

大規模な顧客基盤を有する事業パートナーとの決済連携を推進し、今後もFinTech業界のプラットフォーマーとして、新たな成長領域を開拓してまいります。

セグメント収益 Revenue

67億円 前年同期比 +13%

セグメント税引前利益 Profit before taxes

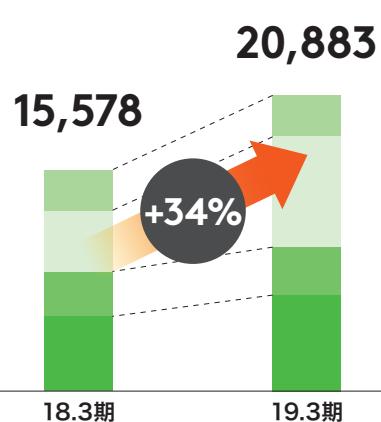
32億円 前年同期比 +13%

決済取扱高 Transaction Volume

20,883億円 前年同期比 +34%

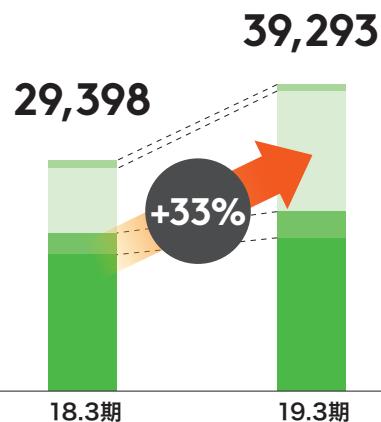
決済取扱高

(単位:億円)



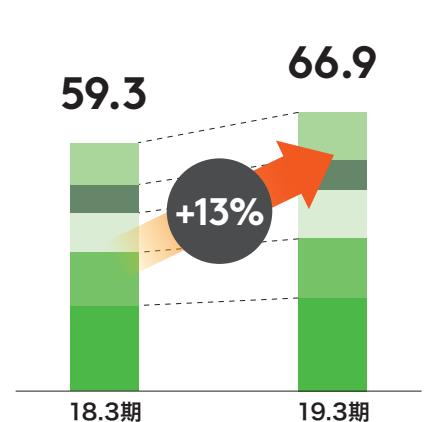
決済取扱件数

(単位:万件)



収益

(単位:億円)



■ カード ■ コンビニ ■ データ処理 ■ 月次基本料・決済OEM ■ その他

収益は前年同期比38%増の137億円、税引前利益は同25%減の14億円

Revenue marked 13.7B JPY, +38% YoY, profit before tax decreased to 1.4B JPY, -25% YoY

主力の金融・不動産領域が好調。人材増強、新規プロジェクトへの先行投資等により減益

Advertising for financial and real estate fields was strong. Profit decreased due to upfront investment in new projects and personnel expansion

マーケティングテクノロジー・セグメントでは、ウェブとリアルを融合した総合プロモーション及びインターネット広告等のウェブマーケティングやビッグデータを活用したデータマネジメントビジネスを行っております。

2019年3月期においては、収益は前年同期比38%増の13,676百万円、税引前利益は同25%減の1,390百万円となりました。

インターネット広告を手掛ける当社マーケティングテクノロジーカンパニーによる、パフォーマンスアドの金融分野及び(株)DGコミュニケーションズによる不動産分野が堅調に推移したことから、取扱高が順

調に拡大致しました。一方、戦略的な人材の増強等の先行投資により販管費が増加致しました。

事業環境の変化に対応すべく、堅調なフィナンシャルテクノロジー・セグメントの決済事業と連携した成長戦略を推進しております。第1弾としてJR九州グループのCRM・決済プラットフォームを構築しました。今後もセグメントを横断した事業開発を継続し、DGグループの強みを生かし新たな収益の柱を構築してまいります。

セグメント収益 Revenue

137億円 前年同期比 +38%

セグメント税引前利益 Profit before taxes

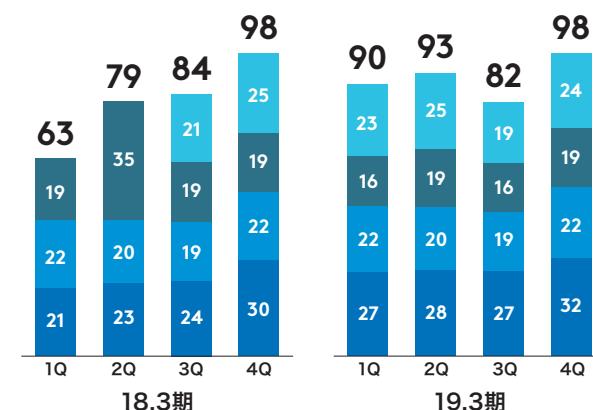
14億円 前年同期比 ▲25%

広告取扱高 Advertisement volume

365億円 前年同期比 +12%

広告取扱高

(単位:億円)



■ 金融 ■ コスメ・HR他 ■ スマホ・アプリ ■ 不動産

業種別取扱高	18.3期	19.3期	前年同期比	要因
不動産	46億円	92億円	2.0倍	不動産広告好調、レジテック参入
スマホ・アプリ	94億円	71億円	▲24%	前期大型ゲーム案件の剥落
コスメ・HR他	84億円	85億円	+0.3%	コスメ、健康食品が牽引
金融	99億円	115億円	+16%	キャッシュレス化推進がフォロー
計	325億円	365億円	+12%	

*IFRSの適用にあたり、(株)DGコミュニケーションズは18.3期下期から子会社として連結

投資先の公正価値評価額が拡大、税引前利益は前年同期比5倍の69億円

Increased fair value of investees. Profit before tax increased 5x YoY to 6.9B JPY

未上場企業の育成に注力し、投資先の価値増大を目指す

Focus on incubating unlisted companies and aim to increase the value of investees

インキュベーションテクノロジー・セグメントでは、国内外の未上場企業への投資・育成及び当社グループ内の事業との連携による投資先の育成などを行っております。

2019年3月期においては、**収益が前期に比べ約3倍となる8,022百万円、税引前利益は同じく約5倍の6,889百万円**と大きく伸長しました。

当事業年度から適用を開始したIFRSに準拠し、**保有有価証券の公正価値が前期に比べ大幅に増加したことが業績を牽引しました。**

当社は、創業期(シードステージ)からIPOまで幅広いステージで未上場企業をサポートしておりますが、当期はこれらの取組みが奏功する結果となりました。引き続き、サポート体制を強化することで投資先企業の価値増大に努めてまいります。

また、シードアクセラレータープログラムとして展開するOpen Network Labにつきましても、バイオテクノロジー・ヘルスケア領域に続き、**不動産関連スタートアップを対象とした「Open Network Lab Resi-Tech」を開始しました。**

セグメント収益 Revenue

80億円

前年同期比
3.1倍

セグメント税引前利益 Profit before taxes

69億円

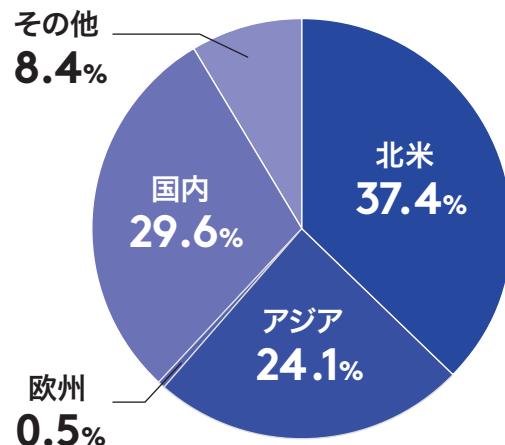
前年同期比
5.2倍

投資額 Amount invested

70億円

エリア別ポートフォリオ(期末簿価ベース)

営業投資有価証券残高:267億円

WHILL
[日本]

従来の電動車椅子ではなく、全く新しいパーソナルモビリティを開発・提供

Droom
[インド]

インド最大の自動車売買オンラインマーケットプレイス「Droom」を運営

Panair
[日本]

クラウドコンピューティングと人工知能を活用して完全自動化した電力小売プラットフォーム「Panair Cloud」を提供

Game Closure
[米国]NEW
メッセンジャーアプリやブラウザといった異なる環境でも利用可能かつ瞬時にロードすることができるHTML5のゲームプラットフォームを開発・提供MONSTARLAB
[日本]

世界各国のエンジニアに開発を依頼できるグローバルソーシングプラットフォーム「セカイラボ」を運営

Grub Market
[米国]NEW
新鮮なオーガニックフードに特化したマーケットプレイスプラットフォームを展開Sendo
[ベトナム]

ベトナムのC2C・B2C向けマーケットプレイス「Sendo」の運営、及び電子ウォレットサービスを提供

MX Technologies
[米国]

金融機関に対してデータの агреゲーションやクレンジングを行うソリューションを提供

税引前利益は前年同期比21%増となる44億円、カカコム持分法投資利益が堅調

Profit before income taxes marked 4.4B JPY, +21% YoY. Investment profit on equity method of Kakaku.com, Inc remains robust

ブロックチェーン金融サービスの研究開発と事業化を目指した取組みを加速

Accelerate R&D and commercialization of blockchain financial services

ロングタームインキュベーション・セグメントでは、当社がこれまで培ってきた投資育成や事業開発のノウハウを活かし、中長期的かつ継続的な事業利益の創出に取り組んでおります。

2019年3月期においては、**収益は前年同期比13%増の7,133百万円、税引前利益は同21%増の4,378百万円**となりました。持分法適用関連会社である(株)カカコムにおいて、主力の「食ペログ」に加え、「求人ボックス」等の新興メディアが順調に推移したことにより、当社業績に貢献しました。

2019年3月期は、**ブロックチェーン金融サービスの開発と事業化への取組みを加速すべく、東京短資(株)との合併会社である(株)Crypto Garageを設立**しました。2019年2月には規制のサンドボックス制度*にて、ブロックチェーン並びに金融分野で第1号となる認定を取得しました。また、4月にはビットコイン決済の仮想通貨デリバティブ取引を実現するP2Pプロトコルを開発する等、事業化への取組みを加速させておりますので、今後の展開にご期待ください。

セグメント収益 Revenue

71億円

前年同期比
+13%

セグメント税引前利益 Profit before taxes

44億円

前年同期比
+21%

カカコム月間利用者数 Monthly traffic for all sites of Kakaku.com

2億7,000万人

Crypto Garage

ブロックチェーン金融サービスの商用化に向けた取組みを加速 ~ SETTLENETに続き、P2Pプロトコルを開発 ~

2018年9月

CRYPTO GARAGE
東京短資(株)と合併で(株)Crypto Garageを設立

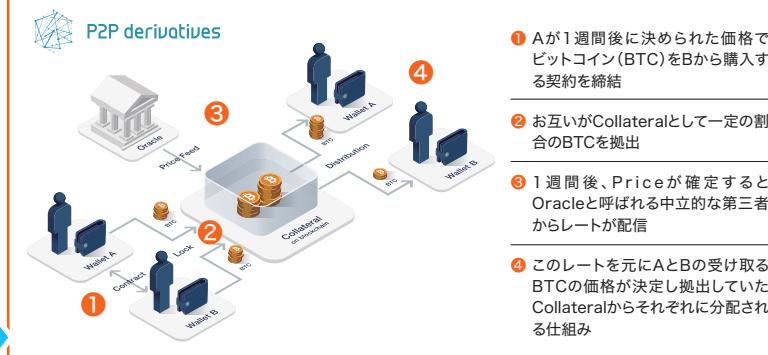
2018年12月

Blockstream
Blockstreamとの資本業務提携

2019年2月

SETTLENET
SETTLENETを開発
規制のサンドボックス認定

2019年4月

P2P derivatives
デリバティブ取引向けP2Pプロトコルを開発取引概要:P2P derivativesの利用により
実現可能となる仮想通貨デリバティブ取引事例

*革新的技術・サービスを事業化する目的で、地域限定や期間限定で現行法の規制を一時的に停止する制度



2019年3月期の連結財務諸表から、国際財務報告基準(IFRS)を任意適用

～ FT/MTの収益実態及び投資事業の公正価値評価をより適切に反映 ～

Voluntary application of IFRS from the consolidated financial statements of fiscal year ending March 2019
Reflect the revenue structure of FT/MT and the fair value assessment of the investment business more appropriately

I グループのビジネスをより適切に IFRS財務諸表に反映

■FT・MT：従来の総額表示から、収益純額表示へ変更することにより、収益実態をより明確に反映

■IT・LTI：投資先企業の公正価値評価を行うことにより、評価額を適切にバランスシートに計上

II 資本市場における財務情報の国際的な比較可能性の向上

III グループ経営の強化 / M&Aや組織再編への迅速な対応

Recurring
FT

MT

Investment / Incubation
IT LTI

		2018.3期		2019.3期	
		日本基準	IFRS	IFRS	IFRS
Recurring	売上高	210 (億円)	59 (億円)	67 (億円)	
	税引前利益	25 (億円)	28 (億円)	32 (億円)	
	収益率	12%	47%	47%	
MT	売上高	349 (億円)	99 (億円)	137 (億円)	
	税引前利益	20 (億円)	19 (億円)	14 (億円)	
	収益率	6%	19%	10%	

		2018.3期		2019.3期	
		日本基準	IFRS	IFRS	IFRS
Investment / Incubation	取得原価*		公正価値*	公正価値*	
	投資先評価	123 (億円)	167 (億円)	267 (億円)	

※連結貸借対照表(日本基準)/連結財政状態計算書(IFRS)上の営業投資有価証券の数値を参照。



日本初のシードアクセラレータープログラムOpen Network Labから派生した各カテゴリーへの展開

～専門領域・エリアに特化した事業育成プログラムが始動～

Expansion into various categories derived from Japan's First Seed Accelerator Program Open Network Lab
Started a business development program specializing in specialized fields and areas

Open Network Lab (日本初のシードアクセラレーター)

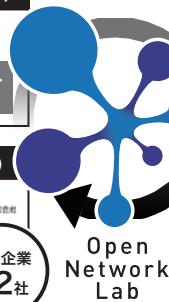
【2010～2019年】

2010年始動
今期10年目

第18期終了
19期募集中

100社超のスタート
アップが卒業

Bio Health (日本初のオープンイノベーションプログラム)



協賛企業
22社

Resi-Tech (業界初の横断型コンソーシアム)



HOKKAIDO (北海道での産官学連携)



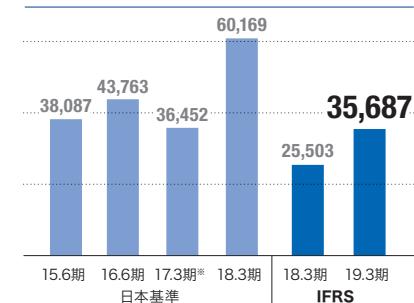
(2019年5月10日現在)

◆ 業績の推移 Financial Results

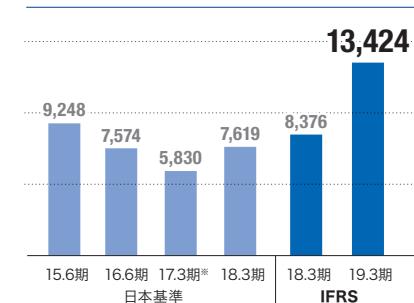
連結業績 Consolidated Performance

(単位:百万円 / JPY in Millions)

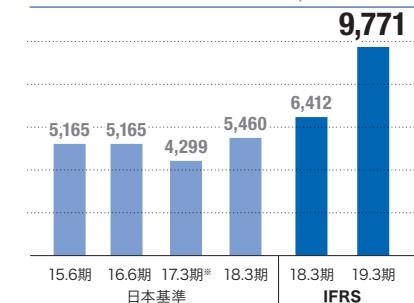
収益 Revenue



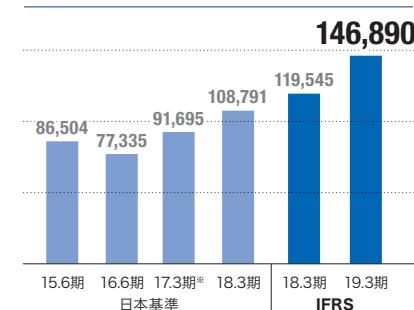
税引前利益 Profit before tax



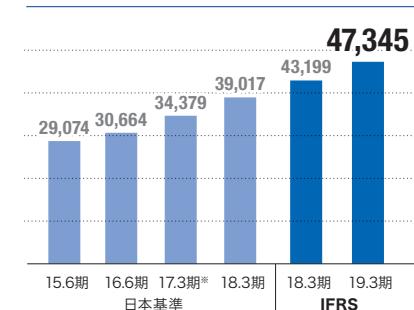
親会社の所有者に帰属する当期利益 Profit attributable to owners of parent



資産合計 Total assets



資本合計 Total equity



セグメント別税引前利益 Profit before tax by segments

(単位:百万円 / JPY in Millions)

FT



MT



IT



LTI



※2017.3期は9ヶ月変則決算のため、年換算した数値を記載。

❖ 連結財政状態計算書(要約) Consolidated statement of financial position

(単位:百万円 / JPY in Millions)		2018.3期末	2019.3期末	前期末比	主たる変動要因/備考
流動資産	Current assets	78,776	99,186	+20,410	
現金及び現金同等物	Cash and cash equivalents	39,450	48,154	+8,704	転換社債発行による資金調達、自社株買い、借入返済等
営業債権及びその他の債権	Trade and other receivables	21,330	23,254	+1,924	FT事業関連科目他
営業投資有価証券	Operational investment securities	16,745	26,695	+9,950	新規投資及び投資先企業の公正価値評価額の増加
非流動資産	Non-current assets	40,769	47,704	+6,935	
のれん	Goodwill	7,959	6,575	▲1,384	株式売却に伴う減少及び減損
持分法で会計処理されている投資	Investments accounted for using equity method	13,915	19,139	+5,224	持分法投資利益の取込、持分法Fund投資先の公正価値評価額の増加
その他の金融資産	Other financial assets	5,010	6,662	+1,652	新規投資及び上場株式の時価評価
資産合計	Total assets	119,545	146,890	+27,345	
流動負債	Current liabilities	48,044	52,420	+4,376	
借入金	Borrowings	4,623	2,211	▲2,413	転換社債発行による調達資金を借入返済に一部充当
営業債務及びその他の債務	Trade and other payables	39,407	45,799	+6,392	FT事業関連科目他
非流動負債	Non-current liabilities	28,302	47,125	+18,822	
社債及び借入金	Bonds and borrowings	19,243	35,959	+16,716	転換社債の発行、転換社債発行による調達資金を借入返済に一部充当
繰延税金負債	Deferred tax liabilities	2,754	4,744	+1,990	有価証券の評価益に係る税金見積り額
負債合計	Total liabilities	76,346	99,545	+23,199	
資本合計	Total equity	43,199	47,345	+4,146	
親会社の所有者に帰属する持分	Total equity attributable to owners of parent	42,717	46,609	+3,892	自己株式取得の実施
資本金	Share capital	7,465	7,504	+39	当期利益の取込
資本剰余金	Capital surplus	3,748	4,235	+487	
自己株式	Treasury shares	▲26	▲5,026	▲5,000	
その他の資本の構成要素	Other components of equity	1,575	1,303	▲272	
利益剰余金	Retained earnings	29,955	38,593	+8,638	
非支配持分	Non-controlling interests	483	736	+254	
負債及び資本合計	Total liabilities and equity	119,545	146,890	+27,345	

投資先企業の公正価値評価額は267億円
ROEは中計目標20%を上回る22%を達成

ROE 18.3期 16% ▶ 19.3期 22%

❖ 会社情報

会社概要

(2019年3月31日現在)

商号 株式会社デジタルガレージ 従業員(単体) 448名
設立 1995年8月17日 (連結) 899名

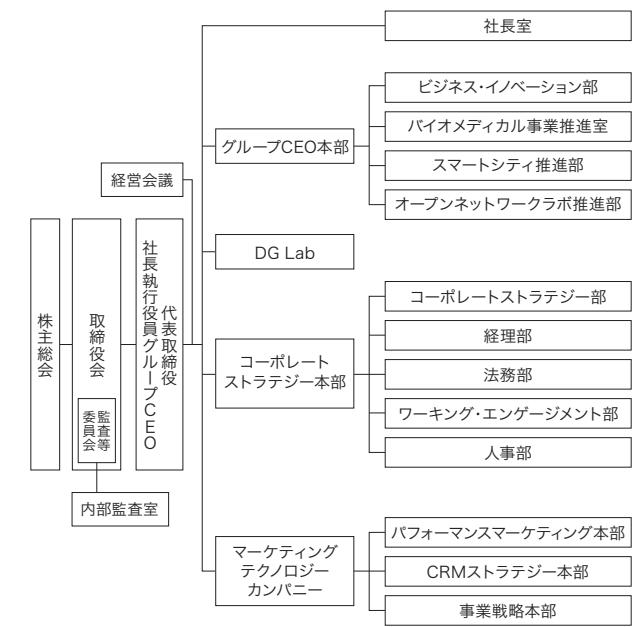
役員

(2019年3月31日現在)

代表取締役 林 郁 社外取締役 藤原 謙次
取締役 曾田 誠 社外取締役 大村 恵実
取締役 踊 契三 取締役(監査等委員) 六彌太 恭行
取締役 田中 将志 社外取締役(監査等委員) 坂井 眞
取締役 枝澤 秀雄 社外取締役(監査等委員) 井上 準二
取締役 大熊 将人 社外取締役(監査等委員) 牧野 宏司
取締役 伊藤 稷一 社外取締役(監査等委員) 大野 実

組織図

(2019年4月1日現在)



株式情報

(2019年3月31日現在)

発行可能株式総数: 120,000,000株 議決権総数: 459,436個
発行済株式総数: 47,341,600株 株主数: 7,406名

大株主

(2019年3月31日現在)

株主名	持株数(株)	持株比率(%)
林 郁	6,815,400	14.83%
(株)電通	3,300,000	7.18%
日本マスタートラスト信託銀行(株)(信託口)	3,163,700	6.89%
TIS(株)	2,364,500	5.15%
ジェービー モルガン バンク ルクセンブルグ エスエイ 385576	1,548,016	3.37%
ザバンク オブ ニューヨーク メロン 140051	1,242,800	2.70%
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	1,216,300	2.65%
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口9)	1,039,100	2.26%
ステート ストリート バンク アンド トラスト カンパニー 505025	890,700	1.94%
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口5)	749,200	1.63%

※持株比率は自己株式(1,391,452株)を控除して計算しております。

株式分布状況

(2019年3月31日現在)

株式数

